

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 9 日現在

機関番号：17301

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2012～2014

課題番号：24653066

研究課題名(和文)19世紀英米児童文学および現代日本の児童文学からの職業および労働観形成の研究

研究課題名(英文)A Study of Occupational Readiness and the Influence of Story to Career Choice of Young People:19c Children's Literature

研究代表者

福澤 勝彦(FUKUZAWA, Katsuhiko)

長崎大学・経済学部・教授

研究者番号：00208935

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文):本研究において、ニートやフリーターあるいはそのような状況に導く若者の早期離職など、我が国の若者が抱える雇用における問題を解決するために、現代までの経済活動が形成されてきた19世紀以降の時代における職業観を物語の中から検討し、その上で学校教育の中で仕事に対する効果的な職業意識の形成を促す教育プログラムのあり方を検討した。その成果として、主体的に学ぶ教育方法の開発をおこない、それを講義の中で実践し効果を認め、主体的な学習のスキームとして提案した。

また、大学生への就職に関する意識調査を実施し、中国の大学生と比較することで我が国の大学生の特性を明らかにし、若者への職業人教育必要性を確認した。

研究成果の概要(英文): In this study, we put important points of career education to inculcate children and young people with work values. In recent years, youth employment environment has become unstable, such as non-regular employment, dispatched works, early turnovers among young people and NEET(Not in Education, Employment or Training), it is important a pressing issue in Japan.

We published the following two things as a result of research. One is the development of effective educational methods for the formation of professionalism. The second is to clarify the characteristics of the professionalism of young people, revealed the need students of vocational education.

研究分野：労働経済学

キーワード：職業観 若者 キャリア形成 仕事 児童文学 労働市場 キャリア教育

1. 研究開始当初の背景

近年、ニートやフリーターの問題が、若者の労働問題として注目されるようになった。政府の雇用政策においても、若者の就業支援などが進められてきた。その背景には、我が国において派遣労働者を含む非正規労働者の急激な増加という急激な雇用環境の変化があった。

そのような労働環境の変化の中で、大学や高校を卒業後新卒として採用された正規労働者の若者が、就職後数年間で大量に離職することや、雇用のミスマッチのために求人があるにもかかわらず仕事に就けない就職活動を途中で断念するなど、様々な雇用を巡る問題が発生してきた。

このような変化は、我が国の産業構造が製造業主体からサービス産業へとシフトすると共に、経済のグローバル化に伴い製造業における工場の海外移転などが急激なペースで進んだことにより、我が国の企業における従来の雇用のあり方が大きく変わったことによる。他方、若者の採用に関する我が国の雇用のあり方は、学卒新規一括採用の慣行が続いており、経済環境の変化に対応したものとはなっていない面がある。学卒新規一括採用は、若者の採用市場が本人にとっては事実上高校卒業と大学卒業のわずか2回に限定され、その機会を逃すと正社員としてのキャリア形成のルートが閉ざされるということの意味している。個人にとってそのことは、企業において教育・訓練を受けより高度な職業人として成長することを不可能とし、結果としてその個人だけでなく社会全体へも大きなダメージを及ぼす可能性がある。

その一方で、我が国の若者は新規一括採用の慣行によって、諸外国にくらべて十分な就職機会が与えられ、学卒次の高い就業率をもたらしており、そのことによってその後の企業内での技能の習得を可能としており、その役割は高く評価すべきものである。

他方、新卒採用の若者の短期での離職が極めて多くなっていることも大きな問題である。言うまでもなく、職業のキャリアアップを目指して離職、辞職すること自体は職業人としての成長を伴うものであるかぎり問題となるものではない。しかしながら我が国で起こっている多量の若者の離職が、そのようなものではなく、自ら描いた職業人と現実の乖離によるものであることが彼らの離職理由から推察される。このような離職は、企業にとっても本人にとっても大きな損失である。また、少子高齢化の中で十分な技能形成がなされないことは、我が国経済にとっても大きな損失であり、若者のスムーズな職業人への誘導が重要な課題となっている。

そのような課題に対して、我が国の教育現場ではキャリア教育の重要性が指摘され、大学、高校などにおいても仕事や職業についての理解を深めることや、現実の経済活動や労働の体験、あるいはインターンシップなどを

通じて、若者への職業意識の涵養を行うこと目的とした教育が模索されてきた。これは、我が国特有の新規学卒一括採用の中で、就職だけを目的化しないように、若者が仕事について十分に考える機会を教育として行うことによって、就職前そして就職後生じるミスマッチを防ぐことを一つの目的としていたと考えられる。しかしながら、そのような努力にもかかわらず、すでに述べたように、離職率は必ずしも減少しておらず、十分な効果を上げていないなど、さらなる教育上の工夫が求められていた。

われわれはこのような問題意識と現実的な課題に対してその解決策が強く我が国で求められていたことや、リーマンショックで顕在化した非正規雇用の問題点などを契機として、若者全体の問題として職業に対する意識と仕事に対する正確な事前の判断を出来る能力を養成する教育のさらなる工夫が必要でないかと考えるにいたった。

2. 研究の目的

本研究は、我が国の若者が仕事を選ぶことや就職していく過程において、学校教育の中で彼らが主体的に解決できるような知識の獲得や能力を育成するための教育プログラムを開発し、若者の就業へのスムーズな取り組みや仕事そのものへの的確な理解を促し早期の離職や雇用のミスマッチなど若者の雇用問題を出来る限り軽減することを目的とする。

すなわち、我が国では新規学卒時という極めて短い機会に生涯にわたる職業を決定することを求められる。インターンシップの拡大やキャリア教育の充実は、有効な手段であり、その内容の充実が重要な課題である。若者にたいして効果的な職業教育を学校教育において施すことで、若者の意図しない早期の離職や卒業後の進路未決定などによって生じるニートやフリーターなどの問題を、このような職業に関する教育によって解決する方策の一つとして提示する。

3. 研究の方法

研究の方法は大きく3つの方向からアプローチした。一つは本研究のアイデアの元となった、物語からの職業あるいは仕事に対するイメージがどのようなものであるかを、現在まで読み継がれる児童文学を主としてとりあげその時代背景と共に理解することである。そのために、英国における19世紀以降の生活風俗や暮らしなどが、現代の英国にどのように受け入れられそして受け継がれてきたのかを博物館や図書館そして企業での調査などを通じて、物語のなかにみられる職業や職業観についての現代的な位置付けについて検討をおこなった。2つめのアプローチは、講義においてアクティブ・ラーニングの手法を実験的に採用し、一方的な講義形式

ではない新たな教育法を実践しながら、その改善を図ると共に方法論として整理することをおこなった。3つめは学生への意識調査を行うことで、かれらの職業観、就職観についてデータに基づく研究をおこなった。これらの研究を総合し、教育プログラムの基本的な考え方を研究した。

4. 研究成果

産業革命の進展と共に、新しい職業が社会に広がりそれが英国社会にどのように受用されてきたのかという過程を、現代まで読み継がれている19世紀からの英米児童文学の中の職業について調査し、こども達にどのような職業観が形成されたのかを検討し、また現代の英国ではそれらの職業の役割がどのように見られているのかを明らかにした。これらの文学は、英国のみならず我が国でも明治以降現代まで読み継がれてきたものである。

このような研究を踏まえ、教育方法の開発および若者の職業や産業に関する意識の研究に関する成果を論文及び学会でそれぞれ報告した。公表された成果の概要は以下の通りである。

(1) 教育方法の改善に関する公表された研究成果

他方、教育方法の改善を目指して、講義の時間を用いて主体的に問題を解決する能力を育成するための教育方法を実施し継続的にその改善を行った。この研究の一部は論文として公表した。本論文(参考文献(1))では100名程度の学生に対して、少人数教育とは違った形式の主体的な教育をおこなうために様々な工夫を行ったことを報告している。教育の具体的な方法として、

課題の解説と課題解決のための基礎知識の講義の実施

課題に対して顔見知りでないグループを編成し、グループでの課題への回答作成

各グループで発表のやり方を決定してグループの意見として発表

学生各自が各回の講義における重要キーワードを設定し、その理解度がどの程度であるかを自己確認

課題回答、キーワードの理解についてシートに記入し、講義終了後に提出

数回分の講義について、適宜その内容についての振り返りの機会を設定した。

教員が設定したこれまでの講義における重要キーワードや解答出来ることが期待される課題について事後的に理解度を確認

以上のサイクルを毎回の講義で実施した。また、事前の予習のために、講義資料と課題を事前配布した。講義の最後には最終課題を課

し評価を行った。

そのような工夫の結果としては、学生の積極的な講義への参加と、主体的な問題解決と問題意識の深化が、レポートから読み取れた。また、履修率および単位取得率、理解度の向上などが、一方的な講義に比してみられた。

また、この教育方法についてはさらに検討をすすめるとともに、講義において実践を継続した。その研究成果の一部は、長崎大学教育イノベーションセンター第45号(平成26年6月23日)全学モジュール・ニュース-アクティブ・ラーニングの充実に向けて-「現代経済と企業活動」報告者藤田渉、および長崎大学教育イノベーションセンター第57号全学モジュール・ニュース(平成26年12月22日)において具体的な方法と成果について報告した。

(2) 若者の就職意識に関する公表された研究成果

若者の職業意識についての調査研究は、その成果の一部を学会において報告した。また、我が国の産業構造の変化(学会報告、藤田・福澤2013)による職業の変遷について研究をおこなった。

特に若者の職業に関する意識に対する本研究においては、我が国の大学生への就職に関する意識調査を実施し、文化背景の異なる中国と比較し、その差異を明らかにしたものである(学会報告、福澤・藤田、2014年)。この比較によっても、我が国の若者の就職意識や職探し行動に対して新規一括採用が規定する特徴が明らかとなった。

また、就職の意識に関する研究は未発表論文(中国大学生の就職意識と職探し行動-日中の比較)としてまとめた。そこでは、中国の大学生の就職に対する行動や意識の特徴を日本の大学生と比較することで明らかにし、彼らに対する就職活動の支援策について検討した。その背景は中国における大学生の急増によって、中国においても大学生の就職難が顕在化したことによって、我が国と同様の問題が生じたという問題意識によるものである。そのために、日中両国でアンケート調査を実施し、中国の公式統計にはあられない、中国の大学生の就活の実態を調査した。その結果を要約すると、中国の大学生は就業経験などの社会経験が乏しいこと、積極的な就職活動をしないこと、賃金と処遇を重視すること、などが日本の大学生との差異としてあらわれた。この研究は、今後中国の大学生に対してどのような就職支援策を行うべきかの指針を与えるものである。

参考文献

- (1) 丹羽量久・正田備也・福澤勝彦・三根真理子・山地弘起。講義主体事業における学生参加度向上を目指した学習課題、長崎大学教育イノベーシ

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 1 件)

丹羽量久・正田備也・福澤勝彦・三根眞理子・山地弘起、講義主体授業における学生参加度向上を目指した学習課題、長崎大学大学教育イノベーションセンター紀要、5号、2014、19項~24項(査読なし)

[学会発表](計 2 件)

福澤勝彦・藤田渉、大学生の就職意識について-日中比較、九州経済学会、2014年12月6日、九州大学箱崎キャンパス(福岡県福岡市)

藤田渉・福澤勝彦、輸入制約構と輸出誘発輸入から測る産業構造の変化、九州経済学会、2013年12月7日、大分大学経済学部(大分県大分市)

6. 研究組織

(1)研究代表者

福澤 勝彦(FUKUZAWA, Katsuhiko)
長崎大学・経済学部・教授
研究者番号：00208935

(2)研究分担者

藤田 渉(FUJITA, Wataru)
長崎大学・経済学部・教授
研究者番号：30264196